

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175400472		
法人名	有限会社 まつお		
事業所名	グループホーム はな佐呂間		
所在地	北海道常呂郡佐呂間町字宮前町162-13		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は佐呂間町中心部に位置し住宅街の中にあります。広大な敷地の一角にホームがあり、南側に向けた大きな窓からは陽が入り明るいです。。施設の周りには畑があり、春には野菜や花の種をまき、夏にはひまわりが咲き乱れ、秋にはコスモス、野菜の収穫、ふゆは雪景色と季節を感じられ解放感いっぱいです。収穫した野菜を利用者様と一緒に調理するなど役割につなげ達成感を感じて頂きながら生活しています。散歩や道路清掃などで地域の方々との馴染みの関係作りを行い小さな交流を心掛けています。職員は利用者様の生活ペースに合わせながら笑顔を決めよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	nhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0175400472-00&Ser
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームはな佐呂間は、地域密着型の観点からユニット名を「かぼちゃ」「ほたて」として佐呂間町の特産品名にして、親しみやすいユニット名としています。利用者、職員が皆で決めた「安心して 共に過ごす 思いやりと 笑顔の和」を理念とし毎朝朝礼で唱和しています。最後の和を輪とかけて両手で輪を作り、リハビリを兼ねた動きを全員で行っています。ゆったり、のんびり、和やかな雰囲気になっているグループホームであり、利用者の役割を、生きがいのある生活に実践しています。職員は利用者の事を見守り、特性や性格、當ての生き方を把握して現在に活かせるよう取り組み、介護記録には利用者の会話が記載され介護計画作成に活かされています。毎年新年には利用者が目標を決め短冊に書いて張り出しています。管理者の職員教育は気づきを基本とし会議の中で話し合われています。食事の調理や新聞配布を効率的にする業務の改善提案が職員からなされ一体となった運営が出来ています。家族には逐次連絡や報告、相談が成されており信頼関係が築かれています。また、地域神社のお祭りにはお神輿やお祓いが行われ地域に根差し信頼されたグループホームと成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者と職員が決めた理念を、目のふれやすい所に掲示し毎朝、唱和している。	皆で作成した理念を見につきやすい場所に掲示し、毎朝利用者、職員全員で唱和し、最後に身体で和を輪で表現しています。多くの利用者家族にも理解を得ており実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の道路清掃に参加し馴染みの関係作りを心掛けている。毎年高校生の介護体験学習やゴスペル慰問を通し地域交流を図っている。	地域の清掃活動に参加したり、祭りには神輿の渡来があります。毎年高校生の体験学習があり疑似体験で実感して認知症や高齢者の行動等の理解を得る取り組みを行い交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には地域の方々にも参加して頂き、認知症の病気の理解をしてもらえるよう努めている。散歩やドライブなどで日常的な地域交流で支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催し利用者状況・行事・意見交換を行っている。会議の内容などが記載されたファイルは職員の目につく場所におき閲覧できる。	運営推進会議は年6回利用者家族、民生委員、町担当者、地域包括等の出席を得て利用状況、活動報告、時には避難訓練実施を含めて開催しており意見を得て運営に活かしています。職員には閲覧で共有しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の介護保険課、地域包括支援センターと利用者の待機状況や介護保険更新認定調査などの協力を行い実情を伝え取り組んでいる。	町担当者とは日常的に情報が得られる様連絡をしています。職員採用についての助言を得たりしており、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束委員会で身体拘束につながる行為などを確認しながら拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に向けて指針を作成し適正化検討委員会を設置しており3ヶ月毎に開催しています。職員の研修は年2回取り組んでおり、身体拘束の弊害や禁止事項を正しく理解し身体拘束の無い介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し年2回虐待について勉強会を行っている。また、意識のない虐待が行われていないか日々の生活の中で話し合い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが相談のあった家族さんに対しては包括支援センターから情報をもらい家族さんへ情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の説明時に生活面・金銭面の不安や疑問点を確認し解消できるよう話し合いをしている。改定時は家族会で説明を行い理解と協力を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者・家族の「要望」「希望」と苦情や不満と受けとめ運営に反映している。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握し、何かある時は職員に周知して反映出来るよう努めています。様子を知らせるべくお便りを作成し始めており充実させる方向で進めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや勉強会などで職員の意見を聞く機会を確保している。また、それ以外にも直接意見を聞き度度、対応している。	職員の意見や提案は業務やスタッフ会議の中で把握しています。管理者の指導はその場では行わず会議で話し、気づきを促しています。職員は衛生、レクリエーション、防災他の委員会に所属しており業務提案を行い、運営に反映出来るよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用と代表者・管理者は職員と共に勤務に入り状況把握に努めている。やりがい・向上心の部分は職員の力量を考慮しストレスのない環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修に参加できるよう情報共有を行い回覧、参加希望を取り受講機会を確保している。会議などで研修の伝達講習を開催し情報共有とスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し研修会の参加を通して同業者との接点や交流の機会の確保に取り組んでいる。地域の安心ネットワーク会議に参加して各施設や地域の方々と交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり家族さんからの情報収集、施設見学後ご本人様との面接にて不安や望みを聞かせて頂き、サービス開始後も1対1でゆっくりお話をする時間を設け傾聴し不安の軽減をしながら信頼関係を築く様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設見学を進め、困り事不安要望を聞かせて頂き施設生活での相談には誠意を持って応え不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントと本人家族の意向を把握し安心してサービスを受けることが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝スタッフと利用者様でラジオ体操、歌を楽しみながら共同生活の中で支え合う関係を築き、日々の生活の中では利用者様の知恵や経験を活かし互いに助け合い感謝し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、日頃の情報を提供しています。町外の定期受診の対応は御家族に協力して頂き共に本人を支える関係を大切にしています。年中行事には ご家族様へ参加を呼びかけ利用者様とご家族、職員が一緒に楽しんでいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホールに公衆電話があり友人や家族への電話連絡や、年賀状など馴染みの人との関係が途切れないように支援している。家族、友人などの名前や思い出話を聞かせて頂くことで遠い記憶にならないよう工夫しています。	理美容室等、これまでの馴染みの場所への訪問希望は嘗ては有りましたが、現在は出張理美容が行われています。知人の訪問が有る時は居室で寛げるよう配慮し関係が途切れないように取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間はスタッフが傍におり利用者同士が自然に会話もてるようにしている。その中でスタッフは互いの関係に配慮し座席を決め相互関係を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去の方には定期的なお見舞いを心掛けており 御逝去された方々には一周忌に御供花を送らせて頂くなど御家族様とのほど良い関係に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の発言や表情を観察し記録し意向や望む生活を把握できるようにミーティングなどで話し合っている。	利用者の思いや暮らし方の希望は、契約時の生活歴や日常の会話の中で把握しています。家族にお伺いをすることもあり望む生活が出来る様に支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族の協力を得て生活歴や暮らしの情報を聞き取りしている。また、生活の中で本人から今までの暮らしを聞かせて頂くなどコミュニケーションを図り信頼関係作りを活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活記録を記入している。バイタル測定 水分チェック 排泄チェックなど行い心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様の担当者を決めている。毎月のモニタリング、6ヶ月のアセスメントを通じて現状把握をしている。本人家族とは面会時などに意向に変わりはないか確認するようにしている。	介護計画は基本的には目標期間の6か月毎に利用者、家族の要望を取り入れモニタリングを行って現状に即した計画を作成しています。毎月職員によりカンファレンスが行われケアプランを共有して適切なサービス提供が行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の生活記録に介護計画に沿った内容には井を記し情報共有している。また、介護支援専門員はその経過を確認しながら介護計画の見直しに活かしている。何事においても気づきがあった場合は報連相ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診援助や本人希望の自宅への一時帰宅の支援など職員間で調整しながら出来ることは柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りは施設に神輿、踊り山が来る。また、地域のイベント見学や各慰問受け入れで、安全に楽しい暮らしが出来るよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の受診は施設で行い町外は家族に対応してもらっている。特変時は家族と相談し医療機関を決め受診している。当施設の看護師の支援も受けている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は事業所が行い、遠方への受診は家族が対応しています。医師の送迎で往診に来て頂いたり、看護職員により健康管理がなされており利用者の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態を見て変化がみられた場合職員同士で情報を共有しあい看護師 管理者に報告し指示をもらうようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には医療機関と情報提供している。入院時はできるだけ早くお見舞いに行くようにし認知症の進行予防と病院関係者との関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期の対応についての説明と同意書をもっている。その時期が近づいてきた時には家族と何度も話し合い医療機関とも相談しながら本人家族が安心と後悔のないような支援を心掛けている。	利用契約時に重度した場合における対応に関する指針・看取りに関する指針により説明し同意を得ています。充実した生き方が出来るように尊厳を大切にし、心を込めて日々の生活を支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成。救急対応シートも作成し、既往歴、服用薬を踏まえ敏速に対応できるようにしている。職員は普通救命救急講習を受けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した避難訓練を行い防災委員会を設置し勉強会で災害対策についての話し合いを行っている(前期後期に分け2回開催)	消防署立会いのもと昼夜想定で避難訓練を実施しています。民生委員の方に災害時の要請をしています。火災予防に努めたり冬期対策に暖房器具なども備えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を設置し勉強会で職員間教育を行っている。利用者の目線に合った声掛けを心掛けるよう見える場所に「良い環境づくりの心得」を貼っている。	声のトーンや目線に注意した接し方や利用者の状態や状況の対応はその時々で見極め、利用者一人ひとりのケアに合わせた支援に取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節の行事や誕生日には好みのメニューを聞き調理している。また、一言挨拶を行ってもらっている。レクレーション作業は強制せず無理のない範囲で行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然の外出など急な要望に対応できないこともあるが、対応できる時間を伝えたりパート職員の協力をもらうなど利用者を制止しない柔軟な対応に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度の理容師訪問を行っている。毛染めなど本人の希望があるときは、本人と一緒に職員が協力している。行事や外出などの身支度やお化粧品は、お手伝いや相談にのっている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が出来る利用者様には食材の下ごしらえ、副食の盛り付けを職員と一緒にしている。下膳配膳なども一緒に行っている。	利用者の状態や好みを考慮して調理担当スタッフや職員により、その日に献立、調理を行っています。家族からの食材やおやつなどの差し入れが多くあり、食事やおやつに全員で頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分量などの記録 メニュー表記載と職員間で情報を共有している。嚥下困難な方や偏食などある方には食事形態の工夫を行っている。『バランスの良い食生活』が出来るよう心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔衛生を行っている。ご自身でできる方は見守り、上手くできない方は一部介助や全介助対応している。夜間は義歯を洗浄剤につけ職員が磨きなおしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別の排泄チェック表を作成し個人の排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。夜間も出来る範囲でトイレ誘導や居室にポータブルトイレを設置している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛け誘導でトイレでの排泄を支援しています。排泄チェック表には利用者の注意すべきことが(飲料・薬関係など)添付され情報を共有しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳飲用。朝食時のヨーグルトは毎日の習慣としている。朝の体操や、廊下歩行運動も行っている。水分チェック表を作成し水分量の把握、排便確認はできる範囲で行い、便通薬での調整も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2~3回入浴を行っている。利用者と職員で着替えの準備など行っている。入浴を遠慮させる方がいる場合は無理強いせず翌日に声掛けしている。シャワー浴の場合は一緒に足浴も対応している。	週2回を基本とし利用者の体調や状態により入浴しています。入浴が困難な方には日にちをずらしたり時間を変えて誘導などの工夫で行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に応じて毎日の生活を過ごして頂き不調があれば希望の場所で休んで頂いている。夜間の不眠時には、その場に応じた対応を行い日中の過ごし方を改善、安眠に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自己の担当する利用者さんの薬の仕分けや処方箋ファイル 次回の受診日の把握 服薬の飲み易い工夫、飲み忘れなどないように飲み終わるまでの確認とスタッフ間での確認作業も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、洗濯物干したたみ、新聞たたみ、塗り絵など毎日の生活の中で無理のない役割を持って頂き支援している。嗜好品に関しては家族が個人の好きなお菓子を持参。トランプ、かるた等テーブルゲームをおこなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の体調を考慮しながらドライブや散歩、買い物などに出掛けご家族様や地域の方々の協力を得ながら支援している。	天気の良い日にはドライブや芝桜見学、秋祭りには神輿や山車が練り歩き楽しいと時を過ごしています。気分転換になるよう利用者の希望や体調を考慮し外出するよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される利用者様は家族さんと相談しながら個人の能力に合わせ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホールには公衆電話があり自由に電話がかけられる。かけ方がわからない場合はスタッフがかけている。ご家族の都合もあり状況に応じた対応をしている。手紙や年賀状など状況に応じて代読している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日光が沢山入りポカポカと暖かい。スタッフ間の会話は大きな声とならぬよう配慮している。季節感を感じられるようホールの壁には飾りつけを行っている。	共用空間は明るく、暖かい日差しが射し込み利用者は思い思いの場所で過ごしています。カラオケ愛好会や高校生とのふれあい、お月見や餅つきなどの四季の行事を大切にしています。加湿器や洗濯物などで温湿度に気を付け快適に生活できるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファでは気の合う者同士が隣同士に座り昔話に会話がはずんだり、テレビを見てコメントし合うなど思い思いに過ごしている。また、独りになりたい方は食卓椅子に座り距離をおくことができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた椅子や飾り物などを必ず1つは持参するようお願いしている。また、自宅の寝室の家具配置に近づけられるよう情報をもらい配置決めをして環境の変化が少なくなるよう配慮している。御仏壇を持ってきている方は朝にお供えている。	居室にはクローゼット、カウンターボード、電動ベットが配置されており、利用者の使い慣れた筆筒、ソファ等家具が置かれており、仏壇や家族の写真などが飾られ居心地良く生活できるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はパリアフリーで廊下やトイレ浴室などに手すりが設置されている。居室のドアにはのれんが掛けてあり自分の居室がわかるようにしている。対面キッチンなのでホールからのサインや見守りができる。		